（別紙4）　　平成　22　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1293200067		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム　きらら当代島　（1階ユニット）		
所在地	千葉県浦安市当代島2－22－29		
自己評価作成日	平成22年10月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5－6－12みゆきﾋﾞﾙbizcube7階
訪問調査日	平成22年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームだからこそ出来る支援、グループホームにしか出来ない支援を念頭に自宅にいる時と同じ生活を送り当たり前の事を当たり前にすることが出来るように職員一同が協力して支援している。外へ出てゆく支援に力を入れ、買物・散歩などできる限り利用者の望むところに出かけて行ける様にしている。
ホームでの生活の中心は利用者である事を第一に個々の利用者のADLやQOLを考えできることを見つける努力をし、話し合い全職員が統一した支援が出来るように努めいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「地域に根付いたあたたかみのあるホーム」を3年後の目標として掲げ、目標達成に向けた年度計画、重点項目を策定し、ホーム長、リーダーが中心となり、計画達成に向けた具体的進捗方法を毎月決定している。日々のケアにおいても、買い物や散歩など、出来る限り、利用者が望むところに出かけ、ホーム内はもちろんのこと、戸外での活動も充実させ、支援の幅を広げている。地域との交流に関しては、地域行事である盆踊りの参加や近隣の商店に利用者と共に買い物に出かけるなど、地域行事への参加や地域資源を活用し、近隣との交流充実に努め、地域に根付いたあたたかみのあるホームとして着実に前進している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常生活の延長が、ご利用者のサービスに繋がるように、地域密着によるトータルケア体制を基に日々の実践に努めている。	「地域に根付いたあたたかみのあるホーム」を3年後の目標に掲げ、事務所内に掲示している。理念達成に向け、毎月、月次運営報告において当月の取り組み課題、前月の振り返りを図り、3年後のあるべき姿に前進している。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩等で地域の方と挨拶をしたり、地域の商店を利用し顔馴染みになりつつある。また、地域イベントがあるときには積極的に参加するようにしている。	地域との交流に関しては、地域行事である盆踊りの参加や近隣の商店に利用者と共に買い物に出かけるなど、地域行事への参加や地域資源を活用し、近隣との交流充実に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方たちを運営推進会議に招き、認知症に対する理解を深めるようにしている。認知症に対する偏見が強く、毎日地域商店に顔を出し挨拶をするにつれ少しずつ理解されつつあるがまだまだ理解されているとは言えない		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では年間で決められた議題を基に、取り組みや活動報告を行っており自由な意見交換の場を設けている。職員には議事録を見せ結果を報告しサービスに繋がるように努力している。	運営推進会議は2ヶ月に一度定期的に実施している。会議ではホームの運営報告のほか、身体拘束ゼロへの取り組み、防災訓練の報告等行っている。近隣のグループホームの職員も参加するなど、参加者の幅も広げている。	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困ったことや、わからない事は担当者に連絡を取り、相談・助言をもらっている。運営推進会議には必ず参加してくれており、相談のしやすい環境を作れている。	市の担当課との連携に関しては、入居状況を定期的に報告するほか、運営推進会議において状況を報告している。また、運営上の疑問点等が生じた際には連絡を取るなど、適宜連携を図っている。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修やマニュアル等で職員一人ひとりが理解し、拘束をしない事で起こりうるリスクについて常に考えヒヤリハット等を活用し予見する能力を高めるようにしている。	身体拘束ゼロへの取り組みとして、ホーム内において「身体拘束と高齢者虐待防止について」の研修を実施し、職員の共通認識を深めている。法人本部においても「高齢者虐待防止」研修が実施され、組織的な対策が図られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修やマニュアル等で職員一人ひとりが理解し職員間で何でも言い合えるようにコミュニケーションをとるように努めている。また職員のストレスなどにも気を使うようにしている。		

グループホームきらら当代島（1階）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学ぶ機会を得たが全職員が参加するまでには至ってない。参加できなかった職員には参加した職員の研修報告書などをで個々で理解してもらっている。後期に再び研修があるので積極的に参加できるようにして行きたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には時間を掛け、契約に関して不明な点や不安な点を聞くようにしてお十分納得してもらった上で署名・捺印をしてもらっている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を主とし利用者や家族が意見や要望を発する場を設けている。また、契約時にも同説明をしている。ホーム玄関に意見箱を設置し自由に意見を書き込めるようにしてる。	内外の苦情窓口に関しては、重要事項説明書に明記し、契約時に家族に説明している。また、ホーム玄関先に意見箱を設置しているほか、面会時において意見や要望を収集している。家族からの要望はユニット日誌に記録し、職員間で共有できるよう取り組んでいる。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員には提案や意見を言える雰囲気作りを心がけ、出てきた意見は全職員で話し合い相談し納得した上で業務に反映している。	職員からの意向や要望に関しては、各ユニット会議の場で話し合いの時間を設けている。また、各職員が「目標管理シート」に今後の目標を記入し、その内容に沿って、管理者が定期的に面談を実施し、一人ひとりから意見を収集している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修参加、勤務状況を把握し給与や評価に反映している。また、個々のスキルアップ向上の為研修参加を積極的に勧めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修だけでなく、会社全体の研修(月2.3回)への参加や社外で自分のスキルアップに繋がる研修を個々で探し申請報告をすることにより受講料や交通費を会社が負担してくれる制度がある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の研修会や外交訪問、運営推進会議などを通じて同業者や家族、地域住民との交流を深め開かれたホームを目指しサービスの質の向上に努めている		

グループホームきらら当代島（1階）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面接を行い不安に思っていることや困っている事を確認している。また相手の立場に立ち安心できるような言葉掛けを行い信頼関係を築くように努め、様々な面から情報を集めその人らしく生活できるよう情報を共有している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族との面談を行い困っていること施設に対する要望などを聞き家族も安心してサービスを受けられるように不安解消に努め信頼関係を築けるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の利用者の状況を把握し、本人、家族の思いをもとにどのように支援していくか職員全員で話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の家であることを掲げ、衣食住を共にする事によりホームでの生活を楽しいものにするように働きかけている。また、職員全員が入居者を敬う気持ちを忘れずに接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員の関係が良好であることが入居所にとって最善であると思うが、個々の家庭事情にもよることがあり、個別にで対応している。また、面会時にはもちろんのこと写真つきで手紙を送ったり、電話で日々の様子をその都度伝えている		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店に買物に行ったり、散歩コースにゆかりのある場所を取り入れたりしている。家族の協力を得ながら関係が途切れないように支援を努めている	馴染みの場所への買い物や利用者のゆかりのある場所に出かけたりするなど、ホーム入居後においても、馴染みの人や場との関係が途切れないような支援に取り組まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係に職員一人ひとり配慮品gら孤立させないように支援している(外出時のペア・食事の席など)		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	まだ、サービス利用者終了した方がいないが、その後も入居者や家族を出来る限り支援していきたい		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努める努力はしているが、全てに答えられているわけではい。本人と話をして気持ちを引き出して支援に繋げていけるようにしている。	利用者の思いや意向に関しては、日常会話の中から収集するほか、ケアプラン作成時のアセスメントにおいて、利用者一人ひとりの課題の抽出、及び意向合要望を収集している。家族の方にもアセスメント用紙を配布し記入を頂いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントツールを利用し家族に記入していただいた情報や本人との会話の中から把握したりわからない事があればその都度家族や関係者に確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りで情報を共有したり、月に1度行うモニタリングなどで現状の評価をするようにしている		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月１回のモニタリングや定期的に行われる担当者会議で話し合いを行い現状の把握に努めいてる	ケアプラン作成においては、本人、家族の要望を取り入れるほか、定期的に担当者会議を開催し、職員の意見も収集し総合的な意見を踏まえ作成している。ケアプランの進捗状況は毎月のモニタリングで確認している。	ケアプラン作成時のアセスメントにおいて、アセスメント時期を明確に定め、定期的な見直しを図り、真に利用者が望むことを、全職員間で共有し、支援に反映する仕組みが整うことに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等、個々の記録に残し出勤前に必ず目を通すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隠れたニーズを見つける努力をし、出来うる限り要望にこたえられるようにしている。しかし、自分たちで出来るサービスにも限界があるので、全てにこたえるのではなく、何を望んでいるのか把握する努力をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の買物や散歩などで出来るだけ多くの地域資源を活用する努力をしている。また、安心して楽しく生活が出来るように、個々の趣味や生きがいを把握しケアに繋げるようにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療と必要に応じて行われる訪問歯科が来ている。往診医とは24時間連絡が取れる体制をとっており、薬に関しては薬剤師に24時間連絡を取れる体制になっている。	月に2回、提携先医療機関による訪問診療が実施されている。担当医とは24時間連絡が可能であり、緊急時においても適切に医療を受けられる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療時に同行する看護師に状況を伝え様々なアドバイスを貰っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や職員が入院した際に病院に正確に情報を伝える為に介護サマリーを用意している。往診医とも連携を図り些細なことも報告し関係作りをするようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	アセスメント時に終末期について記載してもらう欄があるが、現時点では記載している家族は殆どいない。これから先のことを考え、家族や本人とも話し合う必要があると感じている。	重度化や終末期に向けた方針に関しては、入居時に家族の方に終末期に関する方向性を聞き取り、ホーム所定のアセスメント用紙に記録している。また、契約時においてホームとして対応できる範囲を家族に伝え、重度化や終末期に向けた方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを設置しており、全職員が把握して出来るようにしている。応急手当や初期対応に関して全職員が対応できるわけではないので、全職員が出来るようにして行きたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い地域の方やご家族にも協力をしてもらっている。	突発的な災害に備え、防災訓練を年度内に2回実施している。訓練では近隣の住民や商店の方の参加もあり、近隣の協力体制も築いている。避難場所に関しても職員間で共有されている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりのプライドを尊重し他利用者との関係作りの為に職員は目配り気配りをしている	利用者に対し不適切な対応にならないよう、声かけに関しては、日頃から注意を払い、不謹慎な発言が生じないよう取り組まれている。利用者の居室へもむやみに立ち入ることはしないなど、利用者のプライバシーに配慮した支援が図られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とのかかわりの中で希望を引き出せるようにし、選択の幅を広げ自己決定が出来るような環境作りを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位を前提に一人ひとりの生活の軸を大切にし、日々の生活の中で個々にあった役割を見つけ時間軸を意識したケアを実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みを受け入れ、自己選択を大切にしている。また、季節に合ったおしゃれを楽しみ、外出時には普段よりも着飾る楽しさを感じてもらいいつもと違う雰囲気を作り出す努力をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しめるように、買物から片付けまで一貫して参加できるように支援している。また、基本のメニューには季節のものを取り入れ、季節感を味わえるようにしている。	食材の買い物や調理、盛り付け、後片付けなど利用者も主体的に取り組めるよう支援している。食事中は、職員も食卓を囲み適宜会話をしながら食事をするほか、利用者の希望に応じて外食も実施するなど、食事が楽しみなひと時となるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、水分量・食事量のチェックを行っている。また、毎月体重測定をして体重の増減にも注意を払い医師に伝えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行うように職員が言葉掛けをしている。一人で対応できない利用者には職員が一緒に行っている。		

グループホームきらら当代島（1階）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせてトイレで自己排泄が出来るようにしている。排泄チェックを行い、それぞれに合った排泄パターンの把握やプライバシーに配慮した介助を行うようにしている	利用者一人ひとりの排泄パターンを記録に残し、一人ひとりのパターンに応じ、必要に応じて声かけでトイレ誘導を促し、排泄の失敗等が生じないよう取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸内菌を増やすために醗酵食品の摂取に積極的に取り組み、自然に排泄できるようにしている。それでも自然排泄がない場合は医師に相談し下剤を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、時間などは入居者に合わせている。(夜間入浴している入居者もいる)入浴中にリラックスした時間を大切にし気分よく入浴が出来るようにしている。	入浴に関しては、3日に1回のペースで入浴できるよう支援している。介助が必要な場合には、職員が介助に付き、安全に入浴できるよう支援している。	家族アンケートの意見から、入浴を柔軟にしてほしい、入浴に数を増やしてほしいとの意見が寄せられていることから、家族の要望も踏まえ、柔軟な対応が図られることに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調を考慮しながら、自由に休息してもらっている。夜間ゆっくり休めるように日中の活動し日の光を浴び身体を動かし体内時計を合わせるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的副作用については個人ファイルに綴じてあり、職員が直ぐに確認できるようにしている。また、不安な点については薬剤師や医師に直ぐに確認が取れるような体制を取っている。誤薬に関しては確認を何度も行い注意している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活の中で役割をもっている。時には個々にあわせた外食・外出を実行している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩では図書館に寄ったり喫茶店によったりする等、当たり前の事が当たり前に出来るように支援している。	戸外活動に関しては、毎日ホーム周辺の散歩に出かけたり、近隣のスーパーまでの買い物、図書館や喫茶店の利用のほか、年間行事計画の中でも外出行事を取り入れ、ホーム内のみでなく、戸外での活動の充実にも積極的に取り組まれている。	

グループホームきらら当代島（1階）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人ひとりのお金はホームで管理しているが何か購入希望があれば、職員と一緒に買物に出かけている。また、支払いをしてもらうときもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や携帯電話を利用者によっては所持している方もいるので、その方に関しては必要であれば職員が仲介に入り対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に気を配り四季を感じることが出来るように花など飾っている。	利用者が集うリビングスペースには、ソファやテーブルの位置も工夫し、利用者が過ごしやすい環境としている。トイレや浴室は清潔さが保たれているほか、廊下等においても歩行の妨げになるものは放置せず、安全面にも配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファーやテーブル位置を工夫し、利用者一人ひとりが居心地のよい空間になるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を置き、以前の生活が継続できる環境を持って生活してもらっており、職員が入室するときは必ずノックをして許可を得てから入室している。	居室内においては、これまで使い慣れた私物の持ち込みを可能とするほか、居室内の家具等の配置においても利用者の状態、家族の要望に応じて決定している。	居室内の掃除や衣類の管理等にも配慮し、利用者がより一層、快適に生活できる空間として配慮されることに期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害になるものは置かず、居室からトイレ・食堂などに行けるよう見守りをしながら言葉掛けを行っている。		